

相模原市美術館基本構想（案） に対する意見と市の考え方

1 結果の概要

(1) 募集期間 平成28年3月15日(火)から平成28年4月15日(金)まで

(2) 提出者数 25人

(3) 件数 131件

2 分類及び件数

	分類	件数	ページ
1	構想全体に関する御意見	33	1～
2	「背景及び経緯」に関する御意見	2	5
3	「美術館の理念と役割」に関する御意見	4	5～
4	「事業展開」に関する御意見	16	6～
5	「美術館の全体像」に関する御意見	4	8～
6	「施設整備」に関する御意見	24	9～
7	「運営・事業推進体制」に関する御意見	13	14～
8	「広報の在り方」に関する御意見	3	16
9	「推進に当たって」に関する御意見	3	16
10	その他の御意見 ・フォトギャラリーや写真に関するもの	29	17～

意見の分類は、本基本構想（案）の項目に基づき行いました。

1 構想全体に関する御意見（33件）

	意見の内容	市の考え方
1	相模原市美術館基本構想（案）を支持する。	本基本構想（案）に基づき、美術館整備を進めてまいります。
2	相模原市が博物館法の精神にのっとり、相模原という地域の特性に即した文化施設の構築に今までいかに努力を重ねてきたか、よく理解できる。	
3	相模原市の特質に合わせた「アートフィールド」は理に適い、「まちづくり、ひとづくり、ものづくり」に相模原市の未来がかかっているとの指摘には大いに賛同する。また、「まちづくり」などの方針は市民を信頼し、勇気づける。	
4	単なる美術鑑賞という受身に留まることなく、「まちづくり、ひとづくり、ものづくり」という積極的な方針を掲げていることは、市民を信頼し大いに勇気づけるものだと思う。市民の若々しさを感じさせるところが、行政としての温かい見識であると思う。	
5	芸術文化の総合拠点としての美術館（相模原）と、アートを学び創造する場としての美術館（橋本）を、連星型にした点がユニークであり魅力的だ。	
6	美術館（相模原）は、広域交流機能を前面にした都市型美術館の可能性を引き続き力強く追究していく絶好のチャンス。また、美術館（橋本）は美術館の教育普及を再度切り拓くものとして、全国的にも世界的にも大きなインパクトを与えるものと思う。	
7	相模原市は、美術アートの市民活動が活発であるが、近隣にある豊かな自然や美術大学といった利点について、まだ十分に生かされていない。連星型美術館が有効に機能すれば、予想を超える美術アート空間（アートフィールド）を醸成する素地と可能性が十分にあり、大いに期待できる。	
8	「文化創造・発信・交流」機能について、著名な作家を新たな視点で再発見する作業や、相模原市ゆかりの作家・グループの再評価、さまざまな地域の美術資源の発掘や情報収集等に特に期待したい。	

9	美術館（橋本）の主導による、市民参加型アートの創生に期待する。
10	幼児・子どもが自然にアートに親しめるような、期待の持てる、夢が膨らむような美術館構想にしてもらいたい。
11	全体的に当基本構想（案）を高く評価する。相模原市は、人口70万人を越す大都市でありながら、スポーツ施設に比べ、絵画や写真などの展示、音楽会や映画などを鑑賞する施設が少ない。音楽や絵画・写真・書などのアートを好む方も数多く在住しているので、限られた財源の中で文化を発信していく為にも、最低限、美術館の設置は必要だ。 この美術館の構想が実現すれば、スポーツに加え文化的行事も活発となり、市内外から多くの人たちが集まり、知名度の向上とともに相模原市の活性化に役立つ。
12	基本構想（案）の地域活性化、美術文化の継承、市民参加型の事業、小中学校との連携事業などの考え方について支持する。
13	基本構想（案）について、全体的な考え方は素晴らしい。この考え方に基づいた計画が実現すれば、周辺都市にはない相模原市独自の美術館が生まれる。
14	美術館を、発信する機能ごとに「美術館（相模原）」と「美術館（橋本）」に分け、連携させて全体を「相模原市美術館」とするアイデアは斬新である。
15	相模原市の目指すべき都市像「潤水都市さがみはら」を美術館に具体的に反映させ、実現させていけるよう十分に検討されたい。美術館を訪れる市内外の人たちが「自然と笑顔になれる空間」を造っていただきたい。
16	相模原市には森に囲まれた「市立博物館」、相模川の水を引き込んだ「相模川ふれあい科学館」、「風」をテーマにした「大風センター」があるので、これらの施設を結ぶ施設として「美術館」を新たに造ることにより、相模原市の文化を育むことができる。

17	1日でも早く美術館が完成し、市民の文化振興（美術・芸術活動）の中心としての役割はもとより、市民が集い寛ぐ憩いの場所となる様、切に望む。	
18	アートの新しい表現に対応できる施設構造とするなど、市民が身近でアートを楽しめる仕掛けを期待したい。	
19	美術館（相模原）整備の基本的な考え方には賛同する。	
20	アトラボはしもとは、現在実施されているような学生や若き美術家の活動拠点として引き継いでいくべき。	
21	現在のアトラボはしもとや、市民ギャラリーの場や機能を保存しつつ連携する形で美術館のあり方を構想していることに共感を覚える。また、これまで相模原市が収集してきた美術作品や、フォトシティさがみはらの収集写真作品とともにさらに発展させることのできる映像センターを含む幅広い分野で展開させる狙いについても深く賛同する。	
22	美術館とフォトギャラリーの統合に賛成する。これまでの美術館整備に係る約30年間の活動に深く感謝する。	
23	「先進的かつ斬新な企画展」に賛成する。東京、横浜等に行かなくても、近くで良い作品展を実施してほしい。我々は、入館料で市政に貢献できると良い。	
24	相模原と橋本の2拠点構想のなかで、相模原では、大規模企画展の開催とより専門性の高い展開、橋本では、きめ細やかなワークショップ活動とその展開など2拠点のそれぞれの特性をより生かした展開を強く望む。	
25	相模原市は、政令指定都市にも関わらず大きな美術館がない。文化振興において非常に貧しい状況であった。このたび美術館をはじめ文化振興策が出てきたことは非常に良いことだ。早急に実行を期待する。JR相模原駅周辺は市役所があるのにさびれており、米軍基地跡地に美術館、周りに写真、絵画、その他文化振興にかかわる展示施設を展開し文化振興の拠点として展開できれば良い。	

26	<p>基本構想に賛成する。特に美術館（橋本）は良いと思う。</p> <p>市内外の美大生らが活躍の場として市内を選んでくれれば、市域の活性化につながる。学生と藤野地区との連携にも大いに期待したい。</p>
27	<p>2016年現在、フォトシティさがみはらの活動も活発化しており、フォトシティ関係者が念願にしている写真美術館を実現化する気運が高まっている。写真美術館建設整備の話聞いてから、すでに10数年が過ぎているが、多くの市民、全国の賛助者の強い支援を活かし、美術館建設のスピードアップを図られたい。</p>
28	<p>首都圏において、美術館が斬新な企画で集客をすることはた易いことではないが、構想（案）にある5つの機能を相互に連携させ、活発に事業展開することによって、美術館が清新な事業を展開していく可能性は大いにある。</p>
29	<p>美術館（橋本）について、学生等を中心とした新たなアートの学びと創造の場として活用するという本案に賛成する。</p>
30	<p>これからの相模原を担う子どもたちが笑顔いっぱいに来てくれる場所にすべき。</p>
31	<p>相模原駅から直結した美術館が望ましい。市民は期待しているので、美術館を是非早期に実現してほしい。美術は敷居の高い高尚な趣味ではなく、人の心を育てるものである。市民が美術にふれながら成長できるような美術館を整備してほしい。また、この美術館整備のプロジェクトに参加したい。</p>
32	<p>相模原市は大都市でありながら、美術館の整備が後回しになっていた。それだけに、他市の例を研究し、「自然と笑顔になれる空間」や相模原市にふさわしい「市民に開かれた楽しい美術館」となることを望む。</p>
33	<p>相模原市はフォトシティさがみはらを15年も開催し続けている政令指定都市であるのに、美術館もない事に落胆していたが、ようやく相模原市美術館構想（案）が正式に出来上がり、パブリックコメントまでに至ったことについて、関係者に</p>

	敬意を表すとともに、大変喜ばしく思う。特に21世紀総合計画から紆余曲折し今日に至っている中、やっと美術館構想がスタートしたという思いが強い市民は沢山おられると思う。	
--	--	--

2 「背景及び経緯」に関する御意見（2件）

	意見の内容	市の考え方
34	「美術館を取り巻く近年の活発な動き」があるとのことだが、具体例も挙げられていないので、説明不足ではないか。市民から見て、活発とは思えない。	最近では、アートを用いた様々な活動が全国的に展開されています。全国各地においてアートを鑑賞、創作するだけでなく、観光や地域活性化などにつなげる実例も増えてきており、様々な場面でアートが活発に活用されているものと考えております。
35	美術館の整備の必要性を訴えており、課題はほぼ分析されていると思うが、やや説得力に欠ける。やはり、江成常夫氏の長年に渡る文化貢献や活動の成果を本構想に具体的に反映して欲しい。	アーティスト個人の活動の成果等につきましては、本構想に具体的に掲載することはできませんが、江成常夫氏の作品は、本市ゆかりのアーティストとして収集・保存を既に行ってきており、本構想においても紹介させていただいております。

3 「美術館の理念と役割」に関する御意見（4件）

	意見の内容	市の考え方
36	相模原市には、本美術館構想を元に、市内外に広がったアートスポットを保護・育成し、ネットワーク化することで、子どもたちや、若者、シニア世代でまったく別に進行しているアートを柔らかく融合・一本化していくことが求められる。	美術館における事業展開につきましては、「アートフィールド」の理念に基づき、施設の内外において、幅広い世代を対象に活動していくことを考えております。
37	都市的なアートと豊かな自然環境から生まれるアウトリーチを融合させ、さらに現在行っている地元人材の活用などを推し進めることで、「自然と都市が融合するダイナミックなアートとしての市民活動」を実現することができ、「これまでにない明瞭な方向性を持った美術アートを実践するアートフィールド（新しい意味での美術館群領域）」が提示できる。	
38	特に藤野地域の市民や芸術家と協働し、アートフィールドを全市的に展開してほしい。	

39	基本構想(案)の「(3)基本方針と事業の方向性」にある「自然と都市の共生を目指す」と「未来を生きる子どもたちを育む」の順位が逆ではないか。	基本構想(案)で示した事業の方向性につきましては、順位付けを意識したものではありません。
----	---	--

4 「事業展開」に関する御意見(16件)

	意見の内容	市の考え方
40	相模原市には伝統文化が少なく、民俗芸能という資料館的要素の強い相模の大凧は保存会で行えばよい。	美術館におきましては、大凧文化に関する調査研究や資料収集等を行う予定はございません。
41	事業展開の「収集・保存」に賛成する。本市ゆかりのアーティストの素晴らしい作品が今でも個人宅等に埋もれている。安価に購入し、保存することも検討されたい。	本市ゆかりのアーティストの作品の収集・保存につきましては、本市の美術文化史上で必要と思われる作品を調査研究し、価格評価も含め収集専門委員の意見を聴取して行ってまいります。
42	美術館で日常的に画家のエピソードを紹介するなどしてはどうか。	美術館内の展示やライブラリーの諸室におきまして、様々なエピソードを含め、アーティストを紹介してまいります。
43	美術館には、何かしらアート作品を常時展示し、市内外からの来館者に鑑賞機会の提供をすることが必要だ。	美術館に来館された方が絵画や写真などの作品をいつでも鑑賞できるよう展示してまいります。
44	企画展の開催だけでなく、市内外の個人・団体から展示作品を募集しても良い。(高いレベルの作品を展示するためには、当然審査が必要。)	美術館における公募展やコンテスト等の実施につきましては、今後の具体的な事業計画の中で検討してまいります。
45	展示に当たって、入館料について検討されているのか。有料であっても、展示品を見たいと感じさせることが必要。	美術館の観覧料につきましては、基本的には有料になると考えておりますが、具体的な観覧料については、今後検討してまいります。
46	美術館(相模原)においては、首都圏全体との活発な交流や総合美術館としてのバランスのとれた機能の充実が特に必要であり、美術館(橋本)では、学校・商店街など外部組織と連携するなど、従来の美術館的教育普及活動の枠組みを超えることが重要。 また、情報化社会である現代においては、視覚等をベースにしたアート活動が、自然科学や医療・介護などあらゆる人間活動に波及しているため、美術の鑑賞能力を育てるといったような狭義の教育普及ではなく、より広い意味でのアートの教育普及活動が必要。	本市の美術館におきましては、多様なニーズに対応した教育普及事業を展開するとともに、文化創造・発信・交流促進事業において、医療や福祉、観光など異分野との連携による新たなアートの創造に取り組んでまいります。

47	昭和54年から続く「さがみ風っ子展」を発展・サポートする事業を行う。例えば、作品を時系列的に鑑賞できるようにする。作品を保管するアーカイブを設けるなど。子供たちの情操教育や文化の継承につながる事業を美術館が行うことで、郷土愛が醸成される。	造形「さがみ風っ子展」につきましては、本市が誇れる歴史ある美術文化の一つであることから、美術館との連携による事業の充実方策などを、引き続き検討してまいります。
48	有名絵画の塗り絵などで、画家の画法、色彩タッチ、構図などを楽しむなど、美術を楽しむコツを伝える講習会を開催してほしい。	美術館におきましては、子どもをはじめとした気軽に利用できる市民向けのプログラムから、より高度な技術を体得するための技術指導まで、多様なニーズに対応した様々なワークショップや講座などの教育普及事業を実施してまいります。
49	教育普及については、美術館（相模原）とは切り離して、美術館（橋本）のみで実施すればよい。	美術館（相模原）は鑑賞教育、美術館（橋本）はワークショップでの創作体験など、それぞれの美術館が学校との連携を図りながら、美術教育の拡充に取り組んでまいります。
50	基本構想（案）は、相模原駅・橋本駅にスポットを当てているが、当市の知名度ではスポーツ分野が先行している。相模原・橋本とギオンスタジアムの3点を結んでアートとスポーツを両立し、集客や経済効果を上げてはどうか。	本市の美術館につきましては、「アートフィールド」を基本理念として、従来アートとの連携が少なかったスポーツ分野などにも積極的な連携を図ってまいります。
51	わざわざ美術館を建設するまでもなく、本市は「恵まれた美術環境」にある。美術活動について興業を行うための施設は必要ないので、ソフトを生かすためのハードを整備する本案には説得力がない。ハードを整備するのではなく、人材の誘致や美術芸術に関連する学校との実働性のある協力事業など、ソフト面から注力すべき。	本市におきましては、ソフト面を充実させることが重要であるという認識のもと、これまで造形「さがみ風っ子展」や「フォトシティさがみはら」、アートラボはしもとにおける事業活動などの経験と実績を積んでまいりました。今後につきましては、本市の恵まれた美術環境を生かし、美術芸術活動の発信力を一層高めるとともに、市民がすぐれた美術作品に触れ、心を癒すことや、本市の未来を担う子供たちが身近な場所で美術を学ぶことで感性が養われ、創造する喜びを感じることでできる拠点施設として、美術館の整備を進めてまいります。
52	芸術家の展覧会の開催をサポートするファンドを設け、近隣商店街や企業と連携し、経済的効果を上げられるイベント（展覧会）を開催してはどうか。	美術館の事業展開の具体的な提案の一つとして、今後検討してまいります。

5 3	C G教育を充実させるためにもワークショップスペースにパソコンとソフトが必要。そして成果作品をプロジェクションで美術館に投影し、近隣のレストランで食事をしながら楽しめる空間づくりも考えられる。	
5 4	県立相模原公園内の植物園のパラパラまんがシアターは秀逸であり、アニメーションの原点でもあるので、若者の感性を刺激し、未来のクリエイターを育てるのに役立つ。美術館の映像シアターで是非、展示してもらいたい。	
5 5	アートによるまちづくりをめざし、国際都市相模原のアイデンティティを構築するため、美術館担当者、大学、企業、外国人を含む市民らにより、市内にアート・ランドマークの創作及び相模原発信の工芸品の制作・販売を企画し実行するアートフォーラムを組織することを提案する。	

5 「美術館の全体像」に関する御意見（4件）

	意見の内容	市の考え方
5 6	美術館を「アート情報の集約拠点」にするといういいながら、2館体制にするというのは欲張りすぎであるだけでなく、かえって機能分散を招く。そこそこのものを2つ造るなどという中途半端な発想では、双方共に価値のない、魅力に乏しい施設になりかねない。 最初から失敗するつもりで立案はされていないだろうが、実際建ててみて当てが外れたり、中途半端であったりする施設も少なからず存在する。	美術館(橋本)につきましては、これまでのアトラボはしもとで培ってきた地域住民や地元商店街などとのネットワークを生かすとともに、美術系大学が近接し、美大生が多く活動し、住み、行き交う橋本駅の周辺に再整備することにより、市民との連携や交流による新たなアートを学び、創造する場としての事業展開がより拡充できるものと考えております。 また、美術館(相模原)につきましては、美術館(橋本)にはない収集・保存などの機能を備えた芸術文化の総合拠点施設として相模原駅周辺に整備することにより、相模総合補給廠の一部返還地に導入が検討されている広域交流機能や広域商業機能、業務・産業支援機能や業務・行政機能を担う施設との連携による相乗効果が生まれ、交流・生活人口の拡大を効果的に図ることができると考えております。
5 7	美術館(橋本)は、一般的な美術館というより、市民や美術を学ぶ学生たちが参加する「アートの学びと創造」に資する施設なので、余分な費用はかけなくてよい。 展示などに必要な設備は、「多様な作品の展示などを中心に事業展開を図る芸術文化の総合拠点」として、美術館(相模原)に整備すべき。	両美術館がその特徴を生かした事業展開を図りつつ、一体的なアートの創造を行

58	美術館（橋本）と美術館（相模原）を整備するとなっているが、建物を1つにまとめて整備費用を抑え、その分の予算をソフト事業に振り分けるのがよいと考える。	<p>っていくため、両美術館が連携・協力してまいります。</p> <p>今後の具体的な施設整備や運営に当たりましては、厳しい財政状況を踏まえ、民間活力の導入も視野に入れながら、効果的・効率的なものとなるよう検討を進めてまいります。</p>
59	相模原市の芸術の拠点としては、相模原駅周辺や橋本駅周辺ではなく、古くから多くの芸術家が拠点とし、町としても振興に取り組んできた藤野地域において、一層の充実を図るべきである。（もし、既存の県立施設が藤野にあるから、市内の別の場所に美術館を整備するというのであれば、美術館を整備する説得力自体が乏しい。）	<p>「アートフィールド」の基本理念は、自然と都市が共生する本市及びその周辺をアートに関わる多様な活動を展開するエリアとして捉えており、芸術文化を長く培ってきた藤野地区も重要なアートスポットであると捉えております。</p> <p>一方、美術活動の拠点となる美術館の立地場所に関しましては、橋本駅周辺及び相模原駅周辺を予定しており、美術館(橋本)につきましては、これまでのアートラボはしもとで培ってきた地域住民や地元商店街などとのネットワークを生かすとともに、美術系大学が近接し、美大生が多く活動し、住み、行き交う橋本駅の周辺に再整備することにより、市民との連携や交流による新たなアートを学び、創造する場としての事業展開が拡充できるものと考えております。</p> <p>また、美術館(相模原)につきましては、美術館（橋本）にはない収集・保存などの機能を備えた芸術文化の総合拠点施設として相模原駅周辺に整備することにより、相模総合補給廠一部返還地に導入が検討されている広域交流機能や広域商業機能、業務・産業支援機能や業務・行政機能を担う施設との連携による相乗効果が生まれ、交流・生活人口の拡大を効果的に図ることができると考えております。</p>

6 「施設整備」に関する御意見（24件）

	意見の内容	市の考え方
60	無駄な費用の発生を抑制するためにも、アートラボはしもとについては現状のまままで十分。	<p>アートラボはしもとにつきましては、平成20年に設置したマンション販売の展示場の無償譲渡を受けて暫定的に有効活用していることから、長期間の使用を想定しているものではございません。</p> <p>このため、これまでアートラボはしもと</p>

		<p>で培った事業を継承・拡充した美術館(橋本)として再整備を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>今後の具体的な施設整備や運営に当たっては、厳しい財政状況を踏まえ、民間活力の導入も視野に入れながら、効果的・効率的なものとなるよう検討を進めてまいります。</p>
6 1	<p>美術館の機能のうち最も重要なものは「芸術作品を収蔵すること」であり、他の機能は収蔵品を活用する手段である。しかしながら、相模原市が収蔵している芸術作品は質・量共にさほど大きなものとは言えず、現状において美術館を建てなければならない水準ではなく、現行の市収蔵美術品展示室やアートギャラリーの活用で用は足りている。</p> <p>美術館を建てるから新たにそれに収蔵するための美術品を買い求め、あるいは貸し出しを受けるなどの行動は「美術館ありき」「ハコモノありき」の姿勢であって、本末転倒である。</p>	<p>本市では、昭和56年から現在までに絵画など313点、写真2,618点の作品を収蔵し、市民ギャラリーにおいて、展示内容に合わせた作品の公開を順次行ってまいりましたが、貸しスペースとしての市民の利用ニーズが高いため、収蔵作品の公開が十分にできない状況です。</p> <p>このため、美術館を整備することにより、市ゆかりのアーティストの作品展示や先進的かつ斬新な企画展などの充実を図ってまいります。</p> <p>また、美術館の機能には、収集・保存のほか、調査・研究、展示、教育普及、文化創造・発信・交流促進などの機能があり、こうした機能を実現できる美術館整備を進めてまいります。</p>
6 2	<p>相模原市美術館構想に基づく建設等は、大反対。少子高齢化の中、中途半端な美術館を造っても、建設費、維持費が無駄になる。文化振興は、東京都、横浜市等の歴史のある大都市に任せるべき。相模原市は、市道の整備(植栽等を含む)、子育て、高齢者対策など、住民に密着した施策を行うことで、住民が豊かに暮らせる環境設備を願う。建設費や維持費を莫大な税金で賄うことになる美術館の建設には絶対に反対する。</p>	<p>本市の美術館につきましては、市民の心を癒し、生活に潤いを与えるとともに、子どもたちの感性を育むなど、相模原の未来にとって、大変重要な施設になると考えておりますことから、整備を進めてまいります。</p> <p>今後の具体的な施設整備や運営に当たっては、厳しい財政状況を踏まえ、民間活力の導入も視野に入れながら、効果的・効率的なものとなるよう検討を進めてまいります。</p>
6 3	<p>美術館(相模原)と美術館(橋本)は、従来にない新たな美術館活動を行うことを想定し、それぞれの機能に応じた十分な設備を備える必要がある。</p> <p>ただし、「全館ハロンガス」のように危険な消火システムや、環境に悪影響を及ぼす「エキボン」のように環境に悪影響を及ぼす恐れのある燻蒸剤など、設置に疑問の残されている設備もあるので、慎重に検討を進めるべき。</p>	<p>美術館の施設整備に当たっては、効果的・効果的な整備を基本としつつ、災害時の安全性や自然環境に配慮し、展示する作品の保護に必要な設備についての検討を進めてまいります。</p>

6 4	カフェ、レストラン、ミュージアムショップのコーナーは、売り上げ実績に従い、スペースを拡大・縮小することができるなど、将来的に施設の利用状況に応じて柔軟に対応できるよう計画して欲しい。	カフェやレストラン、ミュージアムショップ等につきましては、美術館内に整備することを想定しておりますが、美術館周辺の商業施設の状況や他市等の美術館内で運営されているカフェ等の状況などを踏まえ、その設置の在り方を検討してまいります。
6 5	美術館（相模原）には、訪れた人々が休憩できるコーヒーショップを是非設置していただきたい。	
6 6	美術館のサービスを充実してほしい。開放的で、子どもからお年寄り、主婦の買い物の合間にも立ち寄れる場所や、趣味の写真や作品を並べたり、椅子に座ってコーヒーなどを飲みながら仲良く語り合える場所などを設置してほしい。	
6 7	収蔵庫については、過剰な設備を避け、本収蔵庫と一時保管用の仮収蔵庫に分けることや、廃校となった小学校で美術作品の保管を行うことも検討されたい。	作品を一時的に保管する一時収蔵庫につきましては、本格的な収蔵庫と分けるなど、環境に配慮して効率的に運用することを検討してまいります。 また、関連資料などにつきましては、既存施設を収蔵場所として活用することなどを含め、幅広く検討してまいります。
6 8	相模原と橋本の機能の振り分けについて、両者の特性を生かすとしても、なぜ、相模原に映像シアターがないのか理解できない。大規模企画展ならではのシアターの効用があると思う。例えば、橋本を「多目的ホール」、相模原は「大ホール」と考えた場合、そのホールのどちらでも映画上映はするのではないか。	美術館（橋本）におきましては、これまでの事業実績を生かし、アーティストが作成した映像作品の上映や、演劇など舞台芸術とのコラボレーションによる新たなアートの創造のための諸室として「映像シアター」を整備してまいります。 また、美術館（相模原）の具体的な諸室整備につきましては、美術館（橋本）との機能分担も踏まえ、今後検討してまいります。
6 9	美術館（相模原）の設備について、収蔵庫、常設展示室（絵画、写真など）、ライブラリー、これらは全て美術館として最低限の設備であるが、これに加えて、映像シアターを美術館（相模原）に設置すべき。	
7 0	美術館の周りに「市の木・けやき」や「市の花・あじさい」を植えるなどし、時間をかけて「森」に育ててはどうか。このような環境をつくることにより、展示された美術作品も生き活きと輝くと思う。	美術館周辺的环境整備につきましては、今後検討してまいります。
7 1	優れた芸術性を発揮する才能の発掘や育成は、市民全体の芸術許容力、受容レベルの向上が不可欠。公共施設は、もともと美術に対して関心や嗜好をもった限られた人たちだけのものでなく、市民全体	美術館の整備に当たりましては、「相模原市ユニバーサルデザイン基本指針」（相模原市策定）や、「みんなのバリアフリーまちづくり整備ガイドブック」（神奈川県策定）などを踏まえ、障害の有無、

	<p>に貢献する施設であることが必要。その意味で、「5つの方向性」のなかにバリアフリーの視点がないのが不満。</p> <p>本年4月から、障害者差別解消法が施行された。社会的に要請のあるバリアフリーという視点を加味されることを要望する。美術は、万人にとって享受されるべき。テクノロジーの進化により拓かれたバリアフリーだけでなく、ささやかな、日常的な創意工夫によりバリアフリーを実現出来る美術館であって欲しい。</p>	<p>年齢、性別、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすい施設となるよう具体的な設計や整備に取り組んでまいります。</p> <p>また、事業の企画や接遇などの面においても留意してまいりたいと考えております。</p> <p>以上のことから、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点を踏まえた美術館であることが分かるような表現にいたします。</p>
7 2	<p>川崎アートミュージアムのバリアフリーでは、音声ガイドの制作録音室まで持ち、音声ガイドの制作講座まで主催している。このような取組みが、標準になっていくものとする。また、館内に無線システム等のガイド受信システムを加味されることを切に望む。</p> <p>IC技術をはじめ、目覚ましく進むバリアフリー技術について考察され、バリアフリーと市民協働の視点からさらに案を深められることを切望する。</p>	
7 3	<p>相模総合補給廠の返還地の利用に賛成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市型観光スポットの一つにしてほしい。 ・既に「スポーツレクリエーションゾーン計画」が先行している美術館建物の「佇まい」はスポーツする人・見る人にも関心が持てるようにしたい。 ・美術館の場所は相模原の一等地とし、稼げる施設にしてもらいたい。 	<p>美術館（相模原）につきましては、市内外から多くの集客を見込めるよう先進的かつ斬新な企画展などを実施してまいりたいと考えております。</p> <p>また、美術館の整備やその後の事業展開には、多様な市民に関わっていただくことが必要であることから、幅広い市民との協働について、今後検討してまいります。</p>
7 4	<p>美術館（相模原）について、展示と収集・保存をするだけの美術館と受け取られないか心配である。</p> <p>美術関係者だけでなく、各方面の第一人者と協力した事業を実施すれば、アートに縁のない利用者の集客にもつながる。</p> <p>芸術・美術だけでなく、広く文化活動全般に関わって、市民の相模原への誇りや愛着を育てるような施設になってほしい。</p>	<p>美術館（相模原）につきましては、「多様な作品の展示などを行う芸術文化の総合拠点」として整備を進め、本市への愛着の醸成や市民の文化度の向上につながるような取組を進めてまいります。</p>

75	美術館（相模原）においては、「昭和の負の遺産」といった写真を含めた、多様な美術を対象とすべき。ただ漠然と扱うのではなく、幅広いジャンルについてきちんと把握しながら、多様な芸術に開かれた美術館とすべき。	
76	美術館（相模原）は文化のシンボリック存在であることから、併設館でなく、独立館とすべき。	美術館（相模原）の施設形態や規模等につきましては、相模原駅周辺のまちづくり計画である「広域交流拠点整備計画」を踏まえ、今後検討してまいります。
77	美術館（相模原）の規模が想定できるよう、他市の美術館との比較を明示すべき。	
78	美術館（相模原）について、基本方針は「芸術文化の総合拠点」としているのので、従来の絵画、写真、彫刻の展示に留まらず、映像やメディアアート、パフォーマンス、音楽、演劇、ダンスなどの発表ができる施設にして欲しい。	美術館（相模原）につきましては、調査・研究、収集・保存、展示など必要な機能を備えた芸術文化の総合拠点として、広く本市のアートに関する活動を展開してまいります。
79	必要な予算を確保し、構想（案）を早急に具体化していくことを要望する。2020年東京オリンピックまでの完成を期待する。	美術館（橋本）につきましては、美術館（相模原）に先行して整備を進めてまいります。また、美術館（相模原）につきましては、広域交流拠点整備計画を踏まえ検討を進めてまいります。
80	相模原市には、フォトシティさがみはらに取り組んできた15年間の実績があり、相模原市美術館の特徴は、優れた写真を多数収蔵していることにある。美術館（橋本）より写真美術館を含む美術館（相模原）の先行整備を望む。	美術館（相模原）につきましては、広域交流拠点整備計画との整合を図るための検討期間が必要なことから、美術館（橋本）を先行して整備を進めてまいります。
81	美術館は敷居が高くては、市民は足を向けてはくれない。アートとふれあえる楽しい場となれば、文化が市民の間に根付いていくものと考えため、美術館施設として、平面作品を展示する「ガラス箱」と、立体作品を展示する「ガラス箱」、工芸作品を展示する「ガラス箱」、計3つの館を設けて回廊でつなぎ、中心に屋根つきの「アートで遊べる広場」を設けてはどうか	具体的な提案の一つとして、今後検討してまいります。
82	早めに美術館名（ネーミング）も考え、親しみやすいようにしたい。	美術館の名称につきましては、市民に親しまれるものとなるよう、施設に対する命名権についての指針である「相模原市ネーミングライツ導入方針」も踏まえ、今後検討してまいります。
83	美術館の名称について、スポンサー名を冠したものにするのか、検討しているのであれば明示すべき。	

7 「運営・事業推進体制」に関する御意見（13件）

	意見の内容	市の考え方
84	美術館（相模原）と美術館（橋本）については、高い次元における組織的交流が図られ、定期的に人事異動等を実施することが望ましい。この2館に、上下意識や、職員の専門性にギャップが生まれるのは良くない。	両美術館がその特徴を生かした事業展開を図りつつ、一体的なアートの創造を行っていくため、両美術館が連携・協力してまいります。 また、本市における美術文化の調査研究の成果を後世に着実に引き継ぐため、職員体制や職員の専門性や能力の向上につつまして検討を進めてまいります。
85	美術館（相模原）と美術館（橋本）の連星型美術館を整備し運営することについて、構想としては素晴らしいが、スムーズに実現させていくのはかなり難しい。美術館（相模原）と美術館（橋本）の間で人材交流や情報共有を着実に実施することや、第三者機関の構築、専門職員の適正な処遇などが、次々に求められる。	
86	美術館の運営に関して、文化振興課の一部とするのか、別体制にするのか検討しているのであれば、明示すべき。	美術館の運営につきましては、各施設での運営体制を基本とし、民間活力の導入も踏まえ、今後検討してまいります。
87	予算面・体制面がはっきりしていないと、寄附や基金活用方策や収集事業の展開がどの程度可能かが分からない。運営に対する予算面・体制面の全体について、どのように想定しているのか表示すべき。	美術館の運営に対する予算や体制の具体的な内容につきましては、今後検討してまいります。
88	行政サイドは、若い世代を意識し、市民協働と市民に開かれた美術館となるよう取組を進めるべきである。	造形「さがみ風っ子展」や「フォトシティさがみはら」、アトラボはしもとにおける事業活動など本市の各文化事業におきましては、若い世代を意識した事業展開をこれまでも行ってまいりました。このため、美術館の事業展開におきましては、同様に若い世代も意識し、基本理念にある「市民とともに」を念頭に、社会や市民に対して開かれた美術館となるよう取り組んでまいります。
89	“美術をやる人”だけに限定せず、スポーツ系の人などにも仲間になってもらう事が大切と思う。	美術館の整備やその後の事業展開に当たりましては、より多くの市民の方に関わっていただくことが必要であると考えているため、検討委員会やシンポジウム、ワークショップなど市民との協働による取組を推進してまいります。
90	今後、美術館整備を進めていく段階で、広く市民意見を聴取する意味で、学識経験者だけでなく、文化芸術に関心を持つボランティアの意見も加えてもらいたい。また、美術館整備の進行状況をボランティアが閲覧でき、意見を述べられるようにしてもらいたい。	

9 1	市民ボランティアも活用すべき。	美術館の活動を支える市民のボランティア等につきましては、導入に向けた検討を進めるとともに、必要な諸室につきましても今後検討してまいります。
9 2	ボランティアとの協働とあるが、運営体制について、表現されていない。全体の部門体制の構想の中でボランティアの位置づけをはっきり明示すべき。	
9 3	長期的な視野で美術運営を考えると、多くのボランティアやサポーターからの支援が絶対に必要となる。そのためには、彼らが働く環境としての給湯設備や休憩所、更衣室、仕事場等のスペースを、最初から設計に組み込んでおく必要がある。	
9 4	<p>「積極的な市民協働の展開」とあることに、賛同する。市民社会の醸成には、従来の行政と市民を対抗的に考えるのではなく、正に協働した仕組みの創出が不可欠。市民活動も自覚的、先進的の力によって、さらに広く展開されていくだろう。</p> <p>「フィールド図」からは、市民協働の担い手について旧来のイメージしかない。例えば、「市民活動サポートセンター」を置くことも可能ではないか。現代の芸術の活動は、あらゆる場所において可能であり、そこでの展開する事柄はさらに多様になる。特に本市が取り組む写真芸術の可能性を考えればなおさらである。美術館においては、「市民活動とつながる」という意味での「市民協働」まで勘案願いたい。</p>	美術館における事業展開につきましては、「アートフィールド」の理念に基づき、美術館の施設内にとどまらず、市民活動を含め、多様な主体と連携し、活動を展開してまいります。
9 5	アートスタジオ、プライベート・ギャラリーなど、美術・アートの分野でも、民間活力の導入をぜひ積極的に進めていただきたい。	美術館につきましては、美術作品を後世に受け継ぐ役割を担っており、収集、調査及び研究に関わる専門スタッフの存在が重要という特殊性があるため、PFIや指定管理者など民間活力の導入に当たりましては、この特殊性を踏まえた検討を行ってまいります。
9 6	指定管理者制度を導入する場合は、業者が受け持つ業務の範囲を明確化しておくことが必要。(施設管理のみを委託するのか、広報を含めた事業全体を専門業者に委託するのかなど。)また、指定管理者にはアート施設の運営・管理について専門的な知識経験を有していることが求められる。	

8 「広報の在り方」に関する御意見（3件）

	意見の内容	市の考え方
97	広報戦略についてはインターネットの活用が重要であるが、市役所のホームページは制約が多く自由度が少ないので、美術館のホームページは相模原市とは別に公開環境を整えるべき。	ポータルサイトの運営につきましては、本市のホームページ内での広報に加え、民間サイトの活用などについても、今後検討してまいります。
98	集客戦略上、これからは、スマートフォン、SNS等との活発なやりとりは、避けては通れない。	SNSなどのソーシャルメディアの活用につきましても、今後検討してまいります。
99	美術館の広報には専門職員を起用されたい。ライブラリーの司書も同様。	美術館における広報につきましては、市内及び市外へ広く美術館の存在を発信する必要があることから、広報方針や人材採用・育成などについても今後検討してまいります。

9 「推進に当たって」に関する御意見（3件）

	意見の内容	市の考え方
100	展示施設に関しては現在ある市民ギャラリーは非常に展示料が高く一般の美術、芸術団体が気軽に借りられる状況ではない。一区画の展示スペース5日間3,000円～5,000円で借りられれば、文化振興が加速するのではないかと期待する。	本市施設の利用料金につきましては、受益者負担の在り方の基本指針に基づき、施設利用料を決定しておりますので、御理解をいただきたいと考えております。
101	市民ギャラリー機能に関する検討を進めることに賛成する。 現在、市民ギャラリーでは展示品の売買が禁止されていると聞いているが、市民の作品の中で手軽・安価に、購入したいものも多くあると考えるので、これを機に“解禁”を検討されたい。	市民ギャラリーにおいては、市民が美術活動の成果を発表するとともに、美術を鑑賞する場を提供することにより、美術文化の振興及び市民が主体的に学習する機会の充実を図るための施設であることから、条例で展示作品の販売行為等を禁止しております。同様に美術館におきましても、展示品の売買を行うことは予定しておりません。
102	現状の市民ギャラリーは単なる貸会場であり、必要な機能を果たすには、施設の質・規模ともに不十分である。	本市では、昭和56年から現在までに絵画など313点、写真2,618点の作品を収蔵し、市民ギャラリーにおいて、展示内容に合わせた作品の公開を順次行ってまいりましたが、貸しスペースとしての市民の利用ニーズが高いため、収蔵作品の公開が十分にできない状況です。このため、美術館を整備することにより、市ゆかりのアーティストの作品展示や先進的かつ斬新な企画展などの充実を図ってまいります。

10 その他の御意見（フォトギャラリーや写真に関するもの）（29件）

	意見の内容	市の考え方
103	新たな美術館に求められているものは、特色ある美術館である。写真をその他の美術品の展示場と併設することで、他の一般の美術館とは趣を異にした、特徴ある、市民に親しまれる総合美術館となることを構想案に明記してもらいたい。	本市においては、「フォトシティさがみはら」の事業を通じた写真文化の醸成や、本市ゆかりのアーティストの絵画による自主企画展の実施などを行い、長年にわたって本市独自の美術文化を培ってきました。
104	「写真」と「美術」を統合した美術館（相模原）は、「写真」と「美術」の区別を明確にし、両者をあくまでも独立したものにすること。	こうした写真や絵画については、それぞれが美術館（相模原）の柱となる事業であることから、写真（江成常夫氏の作品やフォトシティさがみはらの受賞作品など）や絵画（岩橋英遠氏の作品など）の作品について常時展示し、多くの市民の方に触れていただきたいと考えております。
105	基本構想において、美術館は「美術部門」と「写真部門」に分けることを明記すべき。	このため、以上のことが分かるような表現にいたします。 また、施設における諸室の配置に当たっては、これらの機能を効果的・効率的に行えるよう検討を進めてまいります。
106	相模原から世界平和を望む声を発信するとともに、相模原の大いなる発展のシンボルのひとつとして、写真美術館の設立を願いたい。	美術館（相模原）につきましては、収蔵美術品の活用やフォトギャラリー（写真美術館）機能の実現を図るため、調査・研究、収集・保存、展示など必要な機能を備えた芸術文化の総合拠点として整備を行ってまいります。
107	酒田市には「土門拳記念館」があり、写真愛好家は是非訪問したい街のひとつである。常設の土門拳の写真をいつでも観覧でき、また酒田の伝統を知り、そこに生きる人々の心にも触れ合うことができるからだ。 相模原には「江成常夫」という偉大なる写真家があり、その作品は深く戦争の歴史を後世に伝えるものであると信じる。	また、本市ゆかりの作家（江成常夫氏）の1,400点を上回る写真作品につきましては、常設展示室で展示を行っていきことが分かるような表現にいたします。
108	昨年、友好都市無錫を使節団として訪問した際、現地の「江成常夫写真展」で多くの中国の国民が感動している姿を見た。世界が平和である為には、過去を忘れてはいけない。	
109	「江成常夫写真美術館」ができれば、世界に発信する力を相模原市が持つ事の出来る偉大な財産となる。	

1 1 0	本市には世界的に著名な写真家江成常夫氏が寄贈されている多くの写真作品や、フォトシティさがみはらで15年も蓄積したプロ・アマの作品群がある。今後整備する美術館には、特に江成常夫氏の作品を埋没させないように、常設の展示場が必須であり、このことを強く進言する。	
1 1 1	21世紀総合計画では、江成常夫氏の写真作品展示場を単独で整備するとしていたが、今回の基本構想(案)では美術館とフォトギャラリー(写真美術館)を統合して整備することは、最善の策であるとする。	
1 1 2	美術館として、美術館(相模原)と美術館(橋本)が計画されているが、あくまでも中心は相模原駅周辺の相模総合補給廠跡地とし、その中に「江成常夫写真常設展示場」も整備すべき。	
1 1 3	<p>総合的な美術館も結構だが、何か相模原市の特色を思わせる物をメインにすることが必要だ。相模原市には江成常夫氏という著名な写真家がおられ、江成氏の作品が、相模原市に収蔵されていると聞いている。是非、江成氏の常設展示室を作っていただきたい。</p> <p>戦後70年も過ぎ、戦争を知らない世代が多くなり、負の昭和を未来に語り継ぐ事は、教育的見地からも大切なことだ。平和都市としても、江成氏の作品はふさわしい。</p> <p>また、江成氏は「フォトシティさがみはら」の創設にも貢献されており、江成氏の常設展示室は市内外の多くの人々が集うギャラリーになると考える。</p>	
1 1 4	写真を中心とした映像センターと、絵画や彫刻を中心とした美術は、空間としてそれぞれ独立させるべき。多様な美術の表現方法がないまぜにならないように配慮し、同じ敷地内であっても、映像センターと美術館を別々の柱とする施設プランが必要。	

1 1 5	美術館（相模原）の建設予定地は、相模総合補給廠の一部であり、戦争の記憶を残す場所として、江成常夫氏の写真常設展示室を整備することは意義深い。	
1 1 6	フォトギャラリー（写真美術館）整備及び作品展示事業について、早期の実現を希望する。現在は、寄贈作品など数多く展示する場所が無いため、非常に残念。写真・絵画を常時展示する事が望ましい。	
1 1 7	江成常夫氏の作品展示については、基本構想概要版の中にも盛り込むべき。	
1 1 8	相模原市は、すでに美術館に展示する写真作品を、質・量とも十分に所有しており、美術館の建設を待つみの状態である。	
1 1 9	江成常夫氏より寄贈された多くの写真作品は、世界に誇る優れた作品群で、本美術館の一大特徴となる。常設展示すべき。江成氏は相模原市の宝であり、相模原市がこれを生かさない手はない。	
1 2 0	美術館（相模原）には、「江成常夫常設展示場」を整備し、美術館写真部門の重点に位置づけるべき。	
1 2 1	基本構想のような総花的な美術館ではなく、相模原市ならではの美術館にするため、写真を中心とした「国際写真美術館」としてほしい。	
1 2 2	「フォトシティさがみはら」の存在は美術館の大きなバックボーンであり、同事業におけるプロ、アマ受賞作品も、未来への資産である。	<p>フォトシティさがみはらの活動につきましては、本市の写真文化の醸成に大変重要な役割を担ってきたと考えおります。このため、活動の拠点となる美術館（相模原）を整備し、さらなる事業の拡充を図ってまいります。</p>
1 2 3	「写真部門」について、フォトシティさがみはらの活動などを具体的に記述すべき。	
1 2 4	フォトシティさがみはらで実施している子ども写真教室や親子写真教室の拡充を記述して欲しい。今後の方向性としては、学校教育の美術の時間に写真の講座といった取り組みにまで進んで行って欲しい。	

1 2 5	<p>「フォトシティさがみはら」諸事業をボランティアで支えてきた、「フォトシティさがみはら・サポーターズクラブ」の存在も、この事業の大きな財産。「フォトシティさがみはら」の活動を20年、30年とさらに拡大充実させることがますます重要。</p>	
1 2 6	<p>美術館（相模原）は、下記の理由により「写真」を主力にした美術館にすることが将来的に有効かつ得策である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「写真」を主力または専門とした美術館は極めて少ないため、オリジナリティに富んだ美術館として、新たな事業の展開に大きな可能性がある。 ・総合写真祭「フォトシティさがみはら」の活動の拠点とすることができる。 ・相模原市は写真家江成常夫氏や「フォトシティさがみはら」プロの部入賞者の作品を多く所蔵しており、今後も收藏されていく予定であるため、写真のコレクションが充実している。 ・市内の国立フィルムセンターや、東京都写真美術館との連携により写真展や映像関連事業を行い、活動を活性化することができる。 ・写真はドキュメンタリー的な記録に加え、近年では芸術的な表現手段としても価値が高まっている。 ・写真は絵画に比べ安価であるため、写真に比重を置いた美術館とすることで経済的な運営が可能である。 ・近年、デジタル写真の普及に伴い、写真の表現範囲が飛躍的に広がり、未知の可能性が増大している。 	<p>写真につきましては、江成常夫氏の寄贈作品に加え、15年間に渡るフォトシティさがみはらでの活動実績や収蔵作品等もあることから、美術館（相模原）における事業展開の柱の一つとして考えております。</p>
1 2 7	<p>相模原市ゆかりの写真家江成常夫氏は、全ての写真作品を相模原市に寄贈する意思を伝えている。この貴重な作品を財産として活用すべき。</p>	

1 2 8	相模原市には写真家江成常夫氏の多くの収蔵作品があり、「フォトシティさがみはら」のプロ・アマ作品も多く収蔵されている。また、「フォトシティさがみはら」には、活動の拠点となる施設が必要であることから、市美術館においては写真が重要な要素となることを広く知らしめる必要がある。	
1 2 9	相模原市は2001年からこれまでの15年間にさがみはら総合写真祭を開催しており、プロの部とアマチュアの部の入賞作品が今後も相模原市の所蔵作品として増えていく。フォトシティの作品群は常設展として活用できる。	
1 3 0	フォトシティプロの部入賞者の作品について、美術館の事業展開の中に記載しても良い。	
1 3 1	江成氏の作品群とフォトシティさがみはら入賞者の作品を組み合わせることにより政令指定都市の相模原を広く全国にアピールすることができる。	